法政史学 第四十号の発刊に当って

村上, 直 / MURAKAMI, Tadashi

(出版者 / Publisher)

法政大学史学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政史学 / 法政史学

(巻 / Volume)

40

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

2

(発行年 / Year)

1988-03-24

法政史学 第四十号の発刊に当って

わが法政大学文学部史学科の研究機関誌であり、史学会が発行している『法政史学』は、ここに第四十号を発刊することになりました。

法政大学文学部史学科は、戦前の高等師範部歴史地理科の伝統を受け継ぐものですが、戦後、間もなく昭和二十二年（一九四七）四月に、旧制の第二部文学部地理歴史学科（歴史専攻）の設置によって、新たに創立されたということができません。次いで、同二十三年十月には通信教育部に文学部史学科、同二十四年四月には新制の第二部文学部史学科が設置され、現在の基礎が固まりました。その後、大学院の開設、第二部文学部から第一部への移行などによって、史学科はさらに充実することになりましたが、現在では多くの卒業生が全国各地で多方面にわたって目ざましい活躍をしております。

このような法政大学史学科の発展を支えてきたのは、昭和二十五年（一九五〇）四月に史学の研究を目的としながら、教員と在校生・卒業生が一体となり、相互の向上と親睦を図るために設立された法政大学史学会と機関誌の『法政史学』の発刊であります。『法政史学』は史学会の設立当初は『法政大学史学会会報』と称していたものですが、やがて昭和二十八年（一九五三）の六号から『法政史学』と改称し、現在に至っ

ております。その内容は、研究論文や研究ノート、研究動向などを主体とした学術雑誌であります。それと共に毎年、史学会の大会・例会や学内消息、卒業論文題目などを掲載し、学内外の交流の場としても大きな役割を果たしてきました。したがって、『法政史学』の充実は、わが史学会の発展につながるものであります。しかも、研究論文の中には広く学界から注目されるものも多くなり、『法政史学』への期待が次第に高まりつつあるといえます。このことは教員・在校生及び卒業生が一体となって、あらゆる困難を克服し、その発展に努めてきた賜物であると強く感じております。

法政大学文学部史学科は、手堅い研究姿勢によりながら、実証的でアカデミックな学風をつくり上げていくことが、創立以来の伝統であるといえます。ここに記念すべき『法政史学』第四十号の発刊に当たりまして、今後、ますます会員諸氏が、これまでの成果を踏まえて活躍され、史学会が一層発展していくことを祈念するものであります。

なお、『法政史学』の発行について、法政大学当局の深い御理解による御援助に対し、厚く感謝の意を表する次第です。

昭和六十三年三月

会長 村上 直